



## 申1号 第39回定期大会発言に基づく申し入れ団体交渉を行う! ③

2. 新型コロナウイルス感染症によって急激に社会が変化する中において「変革2027」と働き方改革、及び社員と家族の幸福をどのように実現するのか会社の考えを明らかにすること。

「変革2027」の加速が示される中、JR東労組は「緊急提言」を發出し、赤字・コロナ禍を乗り越えていく議論を職場から深めてきました。これまでの労使議論を踏まえ、現段階の会社の考え方や問題意識について議論しました。

赤字・コロナ禍を乗り越えていこう!

組合：プレス資料や報道を見て施策や取り組みを知ることが増えていることに対して、組合員は不安を抱いている。

会社

環境がこれだけ変わって、今まで通りでは立ちいかない。社員周知はタブレットなどで速やかにできるようになっている。受け取る側も受動的ではなく、社員一人ひとりが主人公であることを実感してほしい。生き残るために社会に適応していかなければならない。

組合：鉄道事業と生活サービス事業の収益比率7：3から、2027年度までに5：5という打ち出しの問題意識は？

会社

コロナ禍において、努力しても収入が上がらない状況。新しい生活様式、非接触など価値観が変化している。コロナ前から生産年齢人口の減少は分かっていたこと。鉄道事業を縮小させていくということではなく、生活サービス事業やMaaS・Suicaに力を入れて収入の確保へつなげていく。

組合：JR他社において一時帰休を実施していくので、組合員は雇用の不安を感じている。休業について考えているのか？

会社

休業については団体交渉をおこなってきている。業務自体が減少していることが休業の理由になるが、現段階で直接すぐ大幅な減少になるものはない。鉄道を残し、持続的に成長することが課題である。

組合：副業についての考え方は？

会社

他の企業で実施していることは認識している。多様な働き方の一つとして副業がある。社会的動向を踏まえ、実施できる可能性を検討している。

組合：国鉄採用社員の退職を機に新たな制度構築を打ち出しているが、どういうことか。

会社

生産年齢人口が減少することはコロナ前から分かっていたことであり、社員がいかに活躍してもらうかは企業として避けて通れない課題である。今示せるものはない。

組合：申1号を申し入れ以降、コロナによって取り巻く状況は様々変わった。会社幹部の発信に職場組合員は敏感になっている。職場と認識一致していくことが、今まで以上に重要と考える。働く側の視点から提起をしていき、建設的な議論をしていきたい。

会社：提起があれば協約に則って議論する。会社幹部だけではなく、各系統で組織横断的に敏感になって取り組んでいくことが大事である。会社の将来をつくるために、全ての分野で力を合わせていくことが重要だ。認識の共有は大事。今後も建設的な議論をしたい。

これからも「JR東労組緊急提言」の議論を深めていこう!